

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人はるにれの里児童発達支援センターさんりんしゃ		公表日		2025年3月24日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	4	<ul style="list-style-type: none"> もう少し個室やスペースがあると、より支援や活動の幅がひろがる感じた。 勝地宇を分けることで1つのエリアに集まる人数を調整している。 ホールがあるのはメリットだと思います。 部屋の狭さもありますが、おもちゃの出し方の工夫はあるといいのかなと思います。 できれば園庭やプレイルームがもう1室あると活動の幅が広がる面もある。 体を動かせるスペース（専用）があるとなお良いのでは・・・と思います。園庭もふくめ。 	利用定員に対しての施設の広さは基準を満たしている広さであり、用意されている教室や施設設備も設置基準を満たしたのになっています。現在の環境の中で、可能な限りの工夫を行いクラス毎に教室の環境設定を行っていますが、玩具の内容、身体遊びに適したスペース作りは今後も工夫できる点です。ただ、児発センターの設置基準等を職員に周知できてないため、定員数と広さの関係についての制度の共有が課題点かと考えます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	2	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの数に対してスタッフの数が足りていないことが常態化している。 有休等重なるると少ない日があると思います。 急に休みになった時でも余裕がある状態だともっと良いなと思った。 元々のスタッフの人数は適切だが、日によってすくない日もある。 規定上は配置基準を満たしている。 急な職員の休みが多い時のフォロー体制があると良いかなと思います。 スタッフ配置がギリギリの時は公園に行かないなど限られた人数の中で怪我のないよう体制を整えてる。 どこへ行くにもホールを通る形なので現状やむを得ないと思いますが、改善できたらなお良いのかなと思います。 	基準の人員は満たしているものの、各職員の家庭の都合等による欠勤等はやむを得ない状況です。「こどもの数に対してスタッフの数が足りていないことが常態化している」という表記がありますが、そのような日でも利用者の数に対しての職員数は基準の4対1を満たしていますが、現場の声として「足りない」と思う現状は当然あります。安全に支援できるよう職員配置は整えていきたいです。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	3	<ul style="list-style-type: none"> みんなで継続して考えていけたらいいと思います。 お子さんによっては分かりにくい場所もあるため、工夫する必要があると感じている。 	お子さんの特性を踏まえたうえで、職員内で意見交換し行っていきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> 掃除は毎日していますが乾燥していたりもう少し工夫できると思います。 各クラスとも個々の特性に合わせた構造化を工夫している。 	細かい部分の清掃は、年間計画で清掃日を設けており、その際に職員で行っています。施設内の環境については、継続して職員で意見を出し合い検討していきます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着ける個室がないため、あるとよい。 クラスで声を掛け合って工夫していると思います。 	個々のお子さんに合わせた教室の利用、クラス間での意見交換を継続していきます。	
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> タのミーティングで一日の虐待・職場環境の視点ではできています。 職場環境委員会で業務に関するアンケートを取っている。 	正職員についてはDCAPシートという目標シートを半期ごとに各自作成し、各個人が目標設定をし業務に取り組んでいます。今後、質問の意図を共有したいと思います。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> アンケートを都度取っているように思います。 例年実施している。 	保護者評価についても、毎年職員に周知していますが、制度の理解についての共有が足りないと感じます。継続して取り組んでいきます。	

業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や打ち合わせなどで意見交換を行っている。 ・不十分なところはありますが、非常勤ミーティングや職員アンケートで改善に努めていると思います。 ・クラス毎の会議、非常勤会議を行いクラス全体にフィードバックしている。 ・会議、個別での定期面談など。 	今後も、職員間での意見交換、会議での意見交換を継続してチーム作りをおこなっていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	3	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価は行ってない。 ・実習生やボランティアの受け入れを行っている。（第三者機関への外部評価は依頼していない） 	第三者機関からの外部評価は行っていませんが、他の関係機関（保健センター、相談室、地域の事業所、幼稚園等）からの見学は随時受け入れ、参観日や学生実習なども積極的に行うことで、外部の目を入れるようにしています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内研修では外部の方に来てもらったり、子ども部会その他外の研修に参加している。 ・年間計画で機会を作っています。 ・事業所内での研修報告や研修、法人内も外部の案内も共有されている。 	今後も職員のスキルアップと当センターのミッションの確認を目的に、研修の場を設けて行うとともに、札幌市の子ども施策に関わる外部研修とその他スキルアップの研修に職員が参加できる体制を作っていきます。
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングで、ご家族・担当とで共有している。 ・週予定、月間予定に活動意図も含め周知している。活動プログラムは支援目標に基づいて小集団活動や季節に応じた行事の中でねらいを持って取り組んでいる。 	当センターの支援プログラムについては、2月にHPIに公表しました。これまでは、通園が決まったご家庭に「通園のしおり」として配布していましたが、HP上に載せ、広く見ていただけるようにしました。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・もっとアセスメントを行ってもよいと思った。 ・本人・家族・支援者の視点の計画を作るよう努めています。 ・個々の計画はモニタリング会議を実施して策定している。 	個々のお子さんに合わせた活動の設定、その活動を計画するための適切なアセスメント方法を選択し、より良い支援が提供できるよう、今後も児童発達支援計画を作成していきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング会議を行い記録に残している。 ・毎月その機会を確保しています。 ・クラス担当やちゅーりっぷ担当内でモニタリング会議を実施している。 	各クラスごとに担当が集まり、一人ひとりのお子さんの様子を共有し評価することで共通理解を図れるようにしています。今後も継続して行っていきます。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	2	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤の方にも丁寧に伝える必要があると感じた。計画に沿った支援を意識して行っている。 ・担当内での共有、進捗状況の確認等行っている。 ・個別の時間の確保が難しい状況があるように思います。 <p>初期アセスメントはインフォーマルな独自のものと同様遠城寺式発達検査も実施。</p>	各クラスごとに担当が集まり、一人ひとりのお子さんの様子を共有し評価することで共通理解を図れるようにしています。今後も継続して行っていきます。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーマルツールを確認したほうがよい。 ・もっと日々のアセスメントをおこなってもよいと思う。 ・遠城寺等発達検査をお子さんの発達の目安として行っている。 ・フォーマルとインフォーマルのアセスメントを全員に行い医療関係者からのフォーマル情報も支援に取り入れるよう努めています。 	初期アセスメントはインフォーマルな独自のものと同様、フォーマルアセスメントとしては、遠城寺式発達検査を使用しています。職員のアセスメントについての理解を深められるように取り組んでいきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・評価できる内容で設定している。具体的な支援についても記載している。 ・計画には具体的な関わりの方法など明記するようにしている。 	ガイドラインに則り、今後も一人一人のお子様の将来につながる発達支援を行っていきたいと考えます。

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の予定について、チームで話し合っている。 ・ホール中遊びの活動設定のバリエーションは課題でしょうか。 	今後も、職員間での意見交換、会議での意見交換を継続してチーム作りと活動プログラムの立案をおこなっていきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・固定化はしていないが同じ内容になりがちなので工夫は必要。 ・できる努力をしていると思います。 ・同じ行事を複数回行う場合は制作内容やゲームの内容を変更して飽きが来ない工夫をしている。 ・人員の関係で固定化している時をあると感じる。 	今後も、職員間での意見交換、会議での意見交換を継続してチーム作りと活動プログラムの立案をおこなっていきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	1	<ul style="list-style-type: none"> ・個別活動と集団活動に分けて支援計画は作っていない。 ・スモールステップの視点をもって取り組んでいます。 	お子様の状況や状態に合わせて、適宜個別活動と集団活動を組み合わせています。そのため、児童発達支援計画の保護者への説明では、その部分もご説明し、同意を得るようにしています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	2	<ul style="list-style-type: none"> ・朝夕のMT共有ボード、引継ぎファイル等で確認している。 ・クラス・ちゅーりっぷでそれぞれ大事に行ってくれています。 ・可能な参加人数で午前枠も共有を行い、午後枠も開始前の共有を行っている。 ・送迎などでスタッフが出ているとできない日もあるが、1日のボードで見て分かるようにしている。 ・できるだけ行っているが、できない日もあると思います。 	朝の打ち合わせでは、その日の動きを常勤職員で確認するようにしています。そのあと、常勤職員から非常勤職員へ引継ぎするようにし、職員間のコミュニケーションを取るようにしています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせが遅れてしまう場合があるため早めに共有・振り返りをする必要があると感じた。 ・夕方の打ち合わせで気付いた点の共有はしている。 ・時間を決めて振り返りをするようにしています。 ・上記同様各クラス内午後枠は、療育後に時間を決めて共有している。 ・できるだけ行っているが、できない日もあると思います。 	業務内の時間でクラス担当者全員集まったの打ち合わせ時間が取れない現状ではありますが、退勤前の打ち合わせでその日と次の日の特記事項を共有しています。また、そのほか法人内で使用している職員間の情報交換アプリを使用し、細かく児童の様子を共有するようにしています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		改善が遅くなってしまう場合があったため、早めに行動することを意識する必要があると感じた。	職員の業務効率化を検討しながら、より良い形で進めていけるように考えていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		受給者証更新に合わせてモニタリングを行っている。	今後も継続します。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・児発管とクラス担当が同席して参加するなどして。 	今後も継続します。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携は積極的に行っている。 	今後も継続します。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・移行の希望があれば行っている。移行の場合引継ぎなどを行っている。 	今後も継続します。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・支援学校や就学先との連携や情報共有を行っている。 	今後も継続します。
		(28～30は、センターのみ回答)			<ul style="list-style-type: none"> ・他の児童発達支援センターはどのように運営、取り組みをしているのか知らないため知る機会があるとよい。 	札幌市子ども部会事務局として参画し、子ども部会の活動を通して、市内の児発センターや事業所との連携を行っています。経験年数や担当業務によって外部とのつながりでは職

関係機関 や保護者 との連携	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	9	1	・児マネ・保育所等センター研修の充実。 ・マネ業務を通して地域で顔がつながる関係作りはしている。関係を作りその上で、情報提供をすすめ底上げで意識している。	員間に差があるため、共有できるように努めたいと思います。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	9	1	・外部研修に参加できるだけの余裕が人数的にも時間的にも足りていない。 ・STPによるコンサルテーション、鳥取大学の井上先生によるコンサルテーション。	職員の業務や体制を考えながら、できる範囲内で取り組んでいるつもりではあります。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	9	1		参加していますが、業務時間外の開催が多いため、参加できない職員もいます。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	8	・長期休暇中は、公園で小学生と会ってあそぶことがある。 ・課題ですが、公園で保育園のお子さんとの交流機会がある。連携を通して顔が繋がっているからこそ公園で一緒に遊んだりできていると思う。 ・公園遊びの際は地域の園や小学生との交流がある。	なかなか定期的な交流はできていない現状があり、今後の課題です。ただ、並行通園児も半数いるため、地域の幼稚園・保育園との連携はできている方だと思います。定期的な交流については、今後も検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		・連絡ノートや電話懇談、送迎などで様子の共有を行っている。 ・電話週間の他連絡ノートと花丸ノートでの共有、個別での電話や面談を実施。	今後も継続します。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10			今後も継続します。	
保護者への 説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10			今後も継続します。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		・ニーズ希望用紙を配布している。 ・支援計画作成時にニーズを個々の家庭に確認して計画作成を行っている。	今後も継続します。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10		・懇談を行っている。 ・受給者証更新月を基準に6か月毎の面談を実施。	今後も継続します。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		・電話でのやりとりが困難な困難な家庭の場合は、定期的なメール家庭に配布物を届ける際に様子を確認するなどの対応を実施。	今後も継続します。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	1	・父母の会、保護者会などは作られていない。 ・茶和会、ママさんトークデー、保護者学習会、スマイルデー。	保護者や家族が参加できる行事は、年間を通じて計画・開催しているものの、保護者会の結成は行っておりません。保護者同士が交流できる場を継続して設けていきます。
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		・相談事項を共有し懇談や電話などできるように業務を調整している。 ・しっかりお話ししながら進めていると思います。 ・直ぐに面談の日程調整を実施している。また、ニーズに応じて対応可能な範囲の方法を提案している。	今後も継続します。	
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	1	・月に一度通信を発行したりブログを載せたりしている。 ・週予定、さんりんしゃ通信、HPで発信している。 ・ホームページの更新、通信、週予定、カレンダーメール送付。	今後も継続します。	

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10			今後も継続します。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		・視覚的なサポート情報量の調整を意識している。	今後も継続します。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	8	地域の方と交流する機会があっても良いと感じた。 ・招待はしていないが会館を借りたり、地元のケーキ屋さんから誕生会のケーキを購入したりつながりは大事にしています。	施設的な要因もあり、地域住民との交流はできていません。つながりのある方達（会館、コンビニ、ドラッグストア、ケーキ店、公園前の住人さん等）には、理解していただいていると感じます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		・マニュアルの見直しや研修を行っている。 ・一斉降園などの訓練はしていないので行ってみたい方がいかもと思う。 ・不足はありますが年々バージョンアップに努めています。	今後も継続します。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		・避難訓練を毎月行う。心肺蘇生の訓練を年に1回行っている。	今後も継続します。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9			契約時に確認しています。年度途中で診断を受けた場合は、保護者から情報提供をいただいています。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		・医師の指示書を提出してもらっている。 ・年度ごと契約時にアレルギー調査票を配布して配慮している。	今後も継続します。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		・防災委員会で各災害時のマニュアルを作っている。	日頃から、児童・職員が安全に生活を送れるよう、安全計画を作成し、定期的な訓練や打ち合わせ・会議での情報共有に努めています。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		・防災通信で周知している。 ・進級式・防災通信で案内している。 ・防災通信配布。	今後も継続します。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		・あるが活用は減ってきているかもしれません。	課題点を検討しながら、今後も継続します。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	1	・虐待防止委員会で研修を行っている。	機会を年に数回設けながら、職員に周知するようにしています。大切な取り組みであるため、職員の意識向上に努めていきます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	1	・支援については、どんな内容についても一人で決定せず、全体で話し合い決定している。また、必ず保護者とも共有するようにしている。 ・配慮で大人と1対1で個室で活動することがある。子どもは「みんなと遊びたい」と表現してくれる。本人の思いも涙み取りつつタイマー鳴ったら次の〇〇でなど、活動をくむようにはしている。保護者に面談で説明している。	基本的に身体拘束は行わないことを方針としており、身体拘束に関わるマニュアルの中に記載し、職員に周知と、職員室内に掲示しています。身体拘束については、必要な状況が出てきた場合は、「工夫している点」に記載があるように進めます。